

UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

#7 UOMO SUNOCO SF14

#8 UOMO SUNOCO SF14

2018年 SUPER FORMULA シリーズ
第3戦(スポーツランドSUGO)レースレポート



大会概要

2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦

大会名称

2018年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第3戦 スポーツランドSUGO

開催日時

5月26日 土曜(予選) 5月27日 日曜(決勝)

開催サーキット

スポーツランドSUGO インターナショナルレーシングコース(1周 3.704256km) 所在地:宮城県柴田郡村田町菅生6-1

同時開催レースカテゴリー

- ・2018年 全日本F3選手権 第3戦&第4戦
- ・2018 N-ONE OWNER'S CUP Rd.6
- ・2018 JAF 菅生スーパーFJ選手権 第3戦

主催

株式会社菅生 / 菅生スポーツクラブ(SSC)

公認

国際自動車連盟(FIA) / 一般社団法人日本自動車連盟(JAF)

認定

株式会社日本レースプロモーション(JRP) / 日本フォーミュラスリー協会(JF3A) / Honda ワンメイクレース事務局(HORS)

後援

公益社団法人宮城県観光連盟 / 村田町 / 河北新報社 / 名取市

UOMO SUNOCO TEAM LEMANS 参戦体制

#7 UOMO SUNOCO SF14

ドライバー: トム・ディルマン

出身地: フランス

生年月日: 1989年4月6日

身長: 177cm

体重: 63kg

血液型: O型



エントラント代表: 太田雅文

監督: 片岡龍也

チーフエンジニア: スティーブ・クラーク

チーフメカニック: 甲賀大毅

#8 UOMO SUNOCO SF14

ドライバー: 大嶋和也

出身地: 群馬県

生年月日: 1987年4月30日

身長: 171cm

体重: 61kg

血液型: A型



エントラント代表: 太田雅文

監督: 片岡龍也

チーフエンジニア: ライアン・ディンゲル

チーフメカニック: 北井修司

レース情報

予選(5月26日)

天気: 晴れ / コース状況: ドライ
 気温: 24度 / 路温: 41度(Q1開始時)
 予選Q1開始: 13時20分



全日本スーパーフォーミュラ選手権は早くも今季3戦目。2週前の九州オートポリスから、東北のスポーツランドSUGOへと舞台を移した。前戦は荒天により決勝レース中止となってしまったが、今回のレースウィークは好コンディションが予想されているなかでの戦いとなる。UOMO SUNOCO TEAM LEMANSにとって目下の最大課題は、今季2種類あるドライ路面用タイヤの硬い方、ミディアムでのスピードだ。この課題をクリアしないと、ミディアム使用限定の予選Q1突破に困難が付きまとう。上位グリッド進出の第一歩として、そこが重要になる。SUGOでの当該カテゴリー優勝経験をもつ大嶋和也と、参戦2戦目、決勝デビュー戦になるトム・ディルマンのコンビが東北決戦に挑む。

#7 UOMO SUNOCO SF14

トム・ディルマン選手

予選結果: 18位(予選Q1ベストタイム: 1分07秒239)

好天の予選日。SUGOを走るのは今回のレースウィークが初めてのディルマンは、Q1最初のアタックで1分07秒239を記録。2回目の走行でタイムアップを狙ったが、マシントラブルが発生してコースを離れ、赤旗中断を呼ぶことに。予選18位に甘んじた。

#8 UOMO SUNOCO SF14

大嶋和也選手

予選結果: 15位(予選Q1ベストタイム: 1分05秒920)

大嶋はQ1最初のランで1分06秒626をマークして16番手。そして2回目のランでは1分05秒920、タイムが出た時点では3番手に。赤旗中断の段階で順位は10番手。しかし走行再開後の短い時間の混戦下でタイムアップを果たせず、最終的には予選15位となった。

レース情報

決勝(5月27日)

天気: 晴れ / コース状況: ドライ
 気温: 24度 / 路温: 41度(決勝開始前)
 フォーメーションラップ開始: 14時19分
 ※当初予定より4分遅れ
 決勝レース周回数: 68周



#7 UOMO SUNOCO SF14

トム・ディルマン選手

決勝結果: 4位(所要時間: 1時間26分44秒358、ベストラップ: 1分07秒960)

決勝日もSUGOはドライコンディション。250kmの決勝レースではソフトとミディアム、両方のタイヤを使って走らなければならない。ディルマンはスタートタイヤにミディアムを選択し、18番グリッドから実質デビュー戦のスタートを切った。そして1周目に16番手へ浮上。ソフトを履くライバルたちに反撃され、ポジションは2つ下がるが、これは仕方ないところ。ディルマンは7周終了で予定通りにピットへ。ここで給油とソフトへのタイヤ交換をして、ゴールまで走り切る、これが今回、チームが後方からの上昇を実現するために選んだ戦略だ。

チームが得意とするソフトで長く走り、さらにはSUGOで多いセーフティカー導入に対しても有利に働く可能性が高いと見込んでの判断。そして実際、16周目にアクシデントが発生し、セーフティカーが導入されることに。これでディルマンにとっては一気に流れが向く。他車がピットインするたびに順位が上がる展開となり、さらにそれだけでなく、ディルマンは速いペースで走って、コース上でライバルを何台かオーバーテイクしてポジションを稼いだ。表彰台一步手前の4位まで上昇、都合14台抜き快走デビュー戦で大いに魅せた。

#8 UOMO SUNOCO SF14

大嶋和也選手

決勝結果: 15位(所要時間: 1時間27分13秒987=67周回完了、ベストラップ: 1分08秒634)

大嶋もディルマンとほぼ同じ戦略でレースに臨んだ。1周目に順位を上げていたのも同じ。そして10周目にピットストップをこなしたが、セーフティカーのタイミングがあまりにも不運だった。1週の短さが災いし、周回遅れ確定の状況に。上位進出の可能性は絶たれてしまう。やむを得ず、データ取り主眼へと移行、ピットレーンを通して単独走行できる場所へ。結果は15位だが、大嶋は貴重な糧を持ち帰った。

レース情報

トム・ディルマン選手のコメント

予選でトラブルが出て後方に沈んでしまい、フラストレーションもありましたが、決勝日の朝の走行でマシンにはいい感触をもっていました。そしてレースではチームが素晴らしい戦略で私を走らせてくれました。ソフトタイヤで61周を走ったわけですが、正しい作戦判断でしたね。ペースも良く、マシンはコンペティティブで、コースで上でオーバーテイクを何度もできました。素晴らしい初レースだったと思います。

片岡龍也監督のコメント

ディルマンがスーパーフォーミュラの実質デビュー戦で4位入賞、それも18番グリッドからの挽回を果たしたことは素直に嬉しく思います。後方スタートでしたから、セーフティカーが出やすいコースであることも含めて早めに仕掛けていくべきというのがチームの作戦判断でした。

その戦略はうまく機能しました。ただ、一方で大嶋が不運な展開に遭遇してしまったことは、チームとして本当に残念だと感じています。今回の決勝でのペースは2台ともライバルたちに遜色ないレベルにありました。これをベースにして、次に向けて進んでいきたいと思っています。

＜大嶋選手のレース状況についての補足＞

10周目にピットストップを終えていた大嶋選手は、1周が短いコースのため、まだピットに入っていない上位陣に対しては見た目上の1ラップダウンの状態にありました。そこでセーフティカー導入となり、隊列走行のなかで2番手と3番手のマシンの間に位置することに。こうなると周回遅れ確定、リスタート後には他のマシンたちにも前を譲らなければならなくなります。それならば、クリーンに走れるところで今後のためのデータ取り主眼の作戦に切りかえた方がいいという判断で、大嶋選手にはピットレーンをスルーしてもらうことになりました。本来なら、ディルマン選手同様に上位進出が期待できたはずの戦況でしたが、大嶋選手にとっては不運な展開になってしまいました。

シリーズランキング

トム・ディルマン : 6位 / 5ポイント (今回5ポイント獲得)

ピエトロ・フィッティパルディ : 一位 / 一ポイント

大嶋和也 : 一位 / 一ポイント

チーム (#7 + #8) : 7位 / 5ポイント (今回5ポイント獲得)

観客動員数

開催期間中 延べ入場者数 約24,200人

5月26日 土曜日(予選日 天気:晴れ)7,700人 5月27日 日曜日(決勝日 天気:晴れ)16,500人

イベントへの参加報告

ピットウォーク

開催日程:5月26日 12:15~13:05
5月27日 11:20~12:10

主催:日本レースプロモーション、スポーツランドSUGO
参加者:トム・ディルマン、大嶋和也
ピットロード開放エリアにて握手&サイン会、撮影会、グッズ提供を行い、沢山のお客様をお迎えすることが出来ました。

キッズウォーク

開催日程:5月26日 16:55~17:25

グリッドウォーク

決勝レース前に実施。

